

平成29年8月3日

地域密着型サービス運営推進会議報告書兼議事要旨

厚生労働省令第34号（平成18年3月14日）第108条の規定に基づき、平成29年7月31日に運営推進会議を開催したので、その記録を作成し、これを公表します。

千葉県長生郡白子町幸治3079番地3  
設置主体) 株式会社 相生  
代表者) 代表取締役 萩原 将之

事業主体及び組織の概要

(介護保険事業所番号)

1275900213

(施設種類及び名称)

グループホーム ゆうなぎ九十九里

管理者兼ホーム長 小川 功一

※ホーム長は当社職制

(事業主体)

〒299-4216

(本店所在地) 千葉県長生郡白子町幸治3079番地3

(商号) 株式会社 相生 (かぶしきがいしゃそうせい)

(代表者) 代表取締役 萩原 将之

電話0475(36)5711 FAX0475(36)5712

(所在地)

〒283-0102

千葉県山武郡九十九里町小関2316番地1

電話0475(70)7333 FAX0475(70)7335

(開設年月日及びユニット数と利用定員)

平成17年10月 1日 1ユニット・利用定員9人(一番館)

平成23年 4月 1日 1ユニット・利用定員9人(二番館)

## 運営推進会議の概要

日 時：平成29年7月31日 13時30分から14時30分

会 場：当ホーム一番館の畳ルームにて

出席者：運営推進会議の構成

### 当ホーム

- ・ 管理者兼ホーム長 小川 功一
- ・ 計画作成担当者 小川 功一（一番館担当、介護支援専門員）
- ・ 計画作成担当者 内山 貴司（二番館担当、介護支援専門員）
- ・ 介護支援専門員 石橋 真理

### 委員

- ・ 地 域 住 民 2名（近隣の住民）
- ・ 当 町 健 康 福 祉 課 1名（介護保険所管課）
- ・ 当町地域包括支援センター 1名
- ・ ちどりの会（ボランティア団体） 2名

### （議題）

1. 入居者情報
2. ゆうなぎかわら版の内容について
3. 当ホームでの全体会議について

(議事要旨)

前回の運営推進会議（5月29日）から今日までの施設や入居者の様子について、説明を行う。また、『ゆうなぎかわら版6月号、7月号』の解説。最後に管理者の小川より、先日に行った全体会議の内容について説明を行う。

1. 入居者情報 平成29年7月31日現在

一番館：男性2名 女性5名 小計7名

二番館：男性6名 女性3名 小計9名

計16名・うち九十九里町内の入居者は10名

内山) 前回の会議までは、各館の要介護度別の人数・平均介護度などを計算してA4サイズの用紙1枚にまとめたものを配布していたが、今回はパソコンを用いて集計したもの(表にしたもの)を作成した。この表を参考に入居者の状態について説明をしたい。

小川) (内山の説明の補足として) 現在、入居者の介護支援計画(ケアプラン)は、パソコンで専用のソフトを用いて作成している。このソフトはよくできしており、ケアプランの作成以外にも、入居者の要介護度の推移、水分摂取量などの特定のデータも抽出することが可能である。ただし、使用する最初の段階で、退去された入居者などのデータが集計に反映されないように、いつ入居したのか、退去したのかを、忘れずにデータとして登録しておく必要はある。

内山) 今回のデータでは、各館別の介護度などの平均を算出することはできないため、両館を合わせて、全体での状態を数値化している。『要介護度別 利用者推移表』を見ると、毎月の平均介護度に大きな変化は見られないことが分かる。

『保険者×要介護度』では、当町(九十九里町)を保険者とする入居者が一番多いことが分かる。

委員) この介護度の月別の推移の項目は、ひとりの入居者の変化を示しているのか。

内山) あくまで、全体の推移を示している表であり、ひとりの入居者の介護度が短期間に変化しているわけではない。確かに要介護の認定調査後に介護度が重度化した入居者もいるが、現在入居者の状態に大きな変化は見られていないと記憶している。

小川) 例えば、入退院の際には介護度が変化しやすい。入院をしていると身体の機能の低下などにより介護度が重度化する傾向にある。退院すると以前の生活に戻り、少しずつでも自分で行うこと増えてくるため、介護度が低くなる

(改善)ということもある。介護度が重い=歩行ができない、寝たきりという

わけではない。介護度とは「どれだけ日常生活の中で人の手を借りなければならないのか」の指標となるものと考えることができる。要介護度5の人でも自立で歩行ができる人もいる。そのような場合、認知症が進行しているとも考えることもできる。

## 2. ゆうなぎかわら版の内容について

今回は6月号と7月号のそれぞれの内容について説明を行う。

内山) 6月号では1枚目では日中の様子、「家族会」の開催日について載せている。2枚目では外出をした「つつじ見学」の様子と新たまねぎほりの様子を載せている。7月号では1枚目は6月号と同様に、日中の様子を載せている。2枚目では、6月24日に開催した「家族会」の様子を載せている。またここでは、入居者と家族が一緒に載っている写真をなるべく使用するようにした。6月号、7月号ともに、誕生日の入居者の写真を最後に載せている。

委員) 載せる写真はもう少し大きくしたほうがよいのではないか。顔などがみえにくいものがあるように思う。

委員) 枚数をたくさん載せようと思うと、どうしても小さくなってしまわないか。

意見を参考にして、かわら版の構図の変更を検討することとする。

## 3. 当ホームでの全体会議等について

小川) ≪具体的な最近の事例の説明≫近隣の方はご存知かと思うが、よく玄関のベンチに入居者が座っているなどしているのを見かけることがあると思う。この方は「家に帰って自由に生活をしたい」という強い思いがあり、外に出ようとされることが度々ある。職員に止められることが分かっているため、最近では「外の空気を吸うだけ」と言われ、外に行こうとされることもある。認知症を得てはいるが、職員が言ったことなどをよく覚えている。信頼関係の構築のためにも、お互いに交わした約束などを守っていくことが大切ではないと考えて、外に出てもよいが、時間を決めて水分を摂ることを約束している。事務所の中から見ていると外へ行こうと歩き出したことも何度かあった。

≪全体会議について≫当ホームでは、毎月可能な限り全職員を集めた「全体会議」と称する会議を行っている。同会議においては、入居者の（介護面の）対応に関することや、清掃などの衛生面などの業務に関することについての講習も行っている。最近では、7月26日の同会議において「自立支援」という介護における大きな課題について職員同士で考える時間とした。先の事例は、認知症を得ていて、その周辺心理症状があるために、自宅においてひとりで暮ら

すことが困難であるから、当ホームで暮らしているものであるが、それをそのままに説明をしても理解しにくいのが実情である。認知症の人は自らが有する世界観の中で話をしていることが多い。例えば、今までで一番楽しかった時期や充実していた時期の記憶の中で会話をしていることがある。日々コミュニケーションをとる中で「どのように言えば納得をしてもらえるのか」その糸口を見つけていく。ある男性の場合、男性職員を自分の部下だと思っていたようで、部下に怒る時のような場面もあった（実体験を説明）。そのような場合は否定などせず、一旦、その怒りや思いを吐き出させることが必要であると思う。そこから「どのように言えば納得をしてもらえるのか」が見えてくるのではないか。

#### 委員の方からの意見交換の内容

**委員)** 以前はよく入居者が散歩をしている姿が見られた。このところ見られていないが。

**石橋)** 入居者の歩行状態の低下、気候の問題などで散歩の機会は減ってきている。現在は、車でドライブと称して出かけるなどして、スーパーマーケットやホームセンター等商業施設を訪ね、同施設内を歩いてもらうなどしている。確かに機会を減らしてしまっているのは反省すべき点である。

**委員)** ボランティアの立場から言うと、できるかどうかは分からないが散歩の際の同行は検討できないか。1対3よりも3対3で行った方がよいのではないか。細い道でも車が来たりするので、危ない場所もある。

**小川)** ぜひ協力をお願いしたい。

**委員)** 自宅での認知症の高齢者の介護を考えた場合、地域の方（近隣）に理解をしてもらえれば、介護をしやすいのではないか。認知症かどうかは一見すると分からないことが多いので、自らが発信をすることで地域の見守り体制ができてくると思う。

参考にと複数のパンフレットなどを提示がある。上記の発言を受けて職員の内山が委員に説明を求める。

**内山)** 現在地域住民や学生を対象にして、認知症に関する授業や講座なども実施されるようになってきている。九十九里町では現在どのような活動を実施しているのかを教えてほしい。

**委員)** この夏休みの期間を利用して、8月下旬に九十九里町の学童保育の生徒を対象とした講座を開催する予定である。可能であれば、施設の方にも参加をしてもらえればと考えている。※

**委員)** そのような場所に実際に認知症の方を連れて行くということは可能か。

講義だけでなく、実際に認知症の人と接したほうがよく理解できるのではないか。

小川) 入居者の家族に了解を得なければならないことでもある。本人も急に違う場所に連れてこられて混乱する可能性もある。だからといって独居の方を連れて行けばよいという問題ではない。現実的には困難である。

内山) 講座の終了後に、子ども達に施設の見学に来てもらうというのはどうだろうか。

小川) 以前そのような案もあったが、現在まで実施できていないのが現状である。

委員) そのような活動を通して、認知症の人もそうでない人も安心して生活のできる地域を作っていくことが大切であり、求められていると思われる。

※ (学童認知症サポーター養成講座)

最後に次回の運営推進会議の開催日を平成29年9月25日の13時30分から予定していることを伝え、会議を終了する。

本件のお問合せ先

グループホーム ゆうなぎ九十九里

管理者兼ホーム長 小川 功一

電話 0475-70-7333